「欣求の志」

「正法眼蔵随聞記」（道元禅師の言葉を弟子がまとめた書物）に

「先ず欣求の志切なるべきなり。たとへば重き宝を盗まんと思ひ、強き敵をうたんと思ひ、高き色にあはんと思う心あらん人は、行住坐臥、事にふれをりにしたがひて、種々の事はかわり来れども、其れに隨いて隙を求め、心に懸るなり。この心あながちに切なるもの、とげずと云う事なきなり。是のごとく道を求むる志切になりなば、あるいは只管打坐の時、あるいは古人の公案に向かはん時、若しくは知識に向かはん時、実の志をもてなさんずる時、高くとも射つべく、深くとも釣りぬべし。是れほどの心発さずして、仏道と云うほどの一念に生死の輪廻をきる大事をば如何が成ぜん。」

「欣求」・・・積極的に願い、求めること。

「志」　・・・ある方向を目ざす気持ち。心に思い決めた目的や目標

「欣求の志」とは積極的に願い、喜んで取り組むことが出来る目標

「欣求の志」をもち、実行することにより、自分が幸せになり、自分以外の人も喜ばせることができます。

平成二十八年一月二十六日

加茂法話会

寒河江文洋